

---

**協和発酵キリン株式会社**  
**2008年度第2四半期決算**

---

**2008年10月30日**

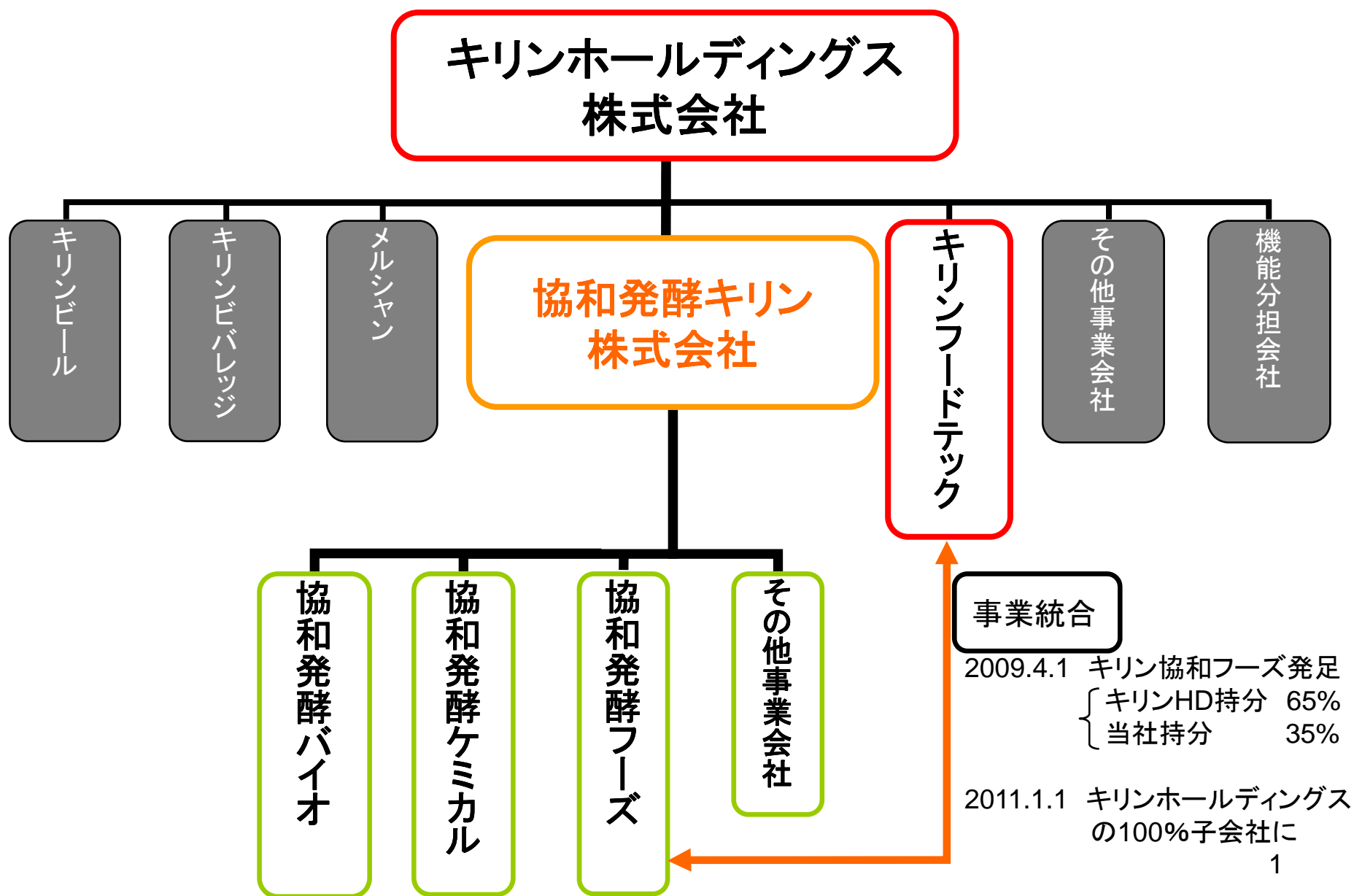
**代表取締役社長**

**松田 讓**

協和発酵キリン株式会社

将来の業績見込みおよび研究開発の状況等については、現時点で入手した情報に基づき判断されたものです。  
従って、実際の業績は経済情勢や為替動向等のさまざまな要因によって変動する可能性があります。

● 事業構造図－2008年10月以降



## ● 決算概要 2008年第2四半期累計期間

**KYOWA KIRIN**

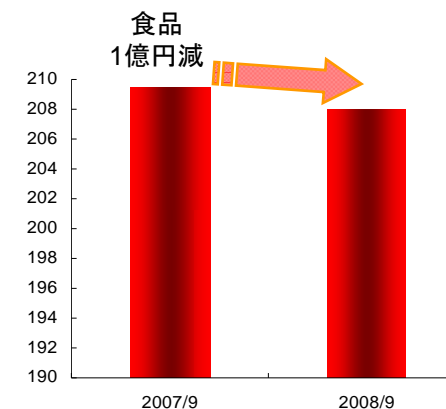
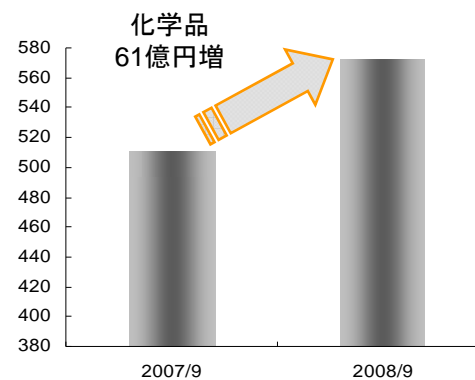
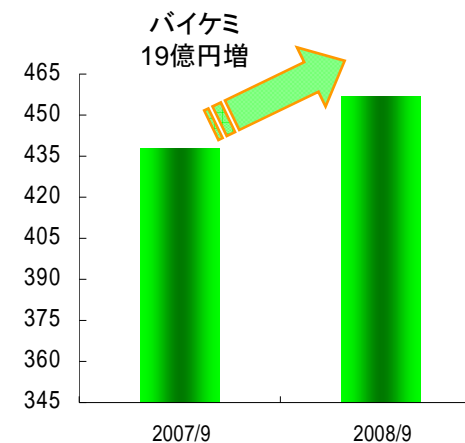
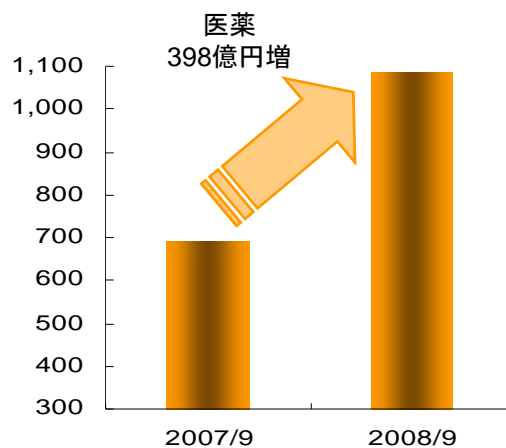
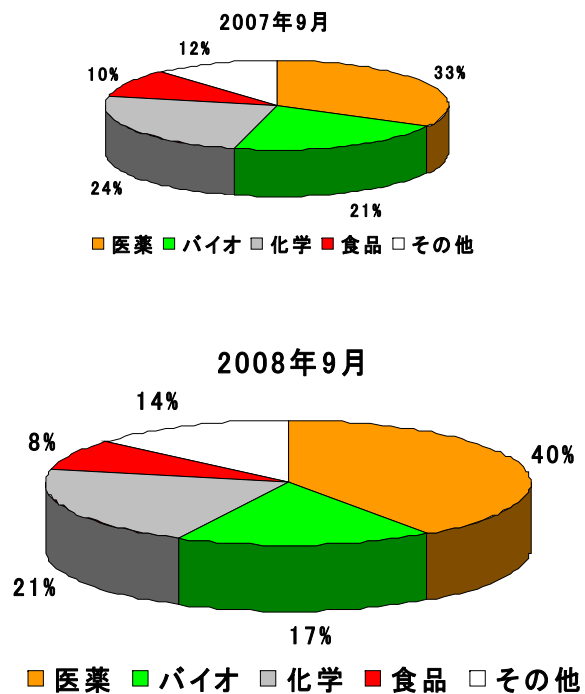
億円	売上高	営業利益	経常利益	純利益
2008年9月	2,477	291	303	82
前年同期比	+551 (+28.6%)	+109 (+59.8%)	+122 (+67.9%)	▲27 (▲25.0%)
2007年9月	1,926	182	180	110

- 医薬 キリンファーマ社との統合、Amgen社からの契約一時金収入などもあり増収増益
- バイオケミカル 輸液用や医薬原料用のアミノ酸、ヘルスケア製品の伸長等により増収増益
- 化学品 原燃料価格高騰を背景に価格改定を実施し増収となるが、営業利益は減価償却費増加等もあり減益
- 食品 原材料価格高騰の影響などを受け若干の減収減益
- 法人税等調整額 協和発酵フーズ(株)株式売却に伴う税効果認識により▲56億円計上
- 特損益 研究所統合に係る減損損失、統合関連費用などが発生

# ● 連結売上高 第2四半期累計増減内訳

KYOWA KIRIN

## ◆ 売上高構成比

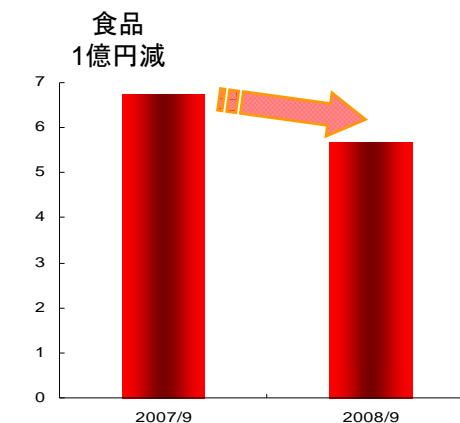
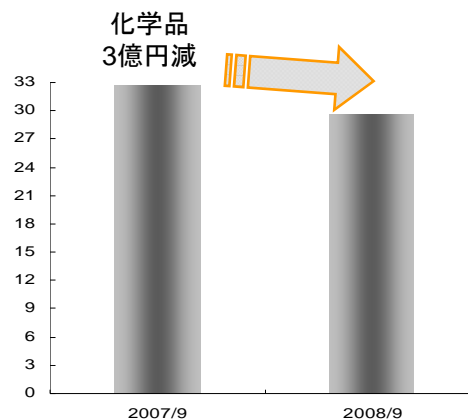
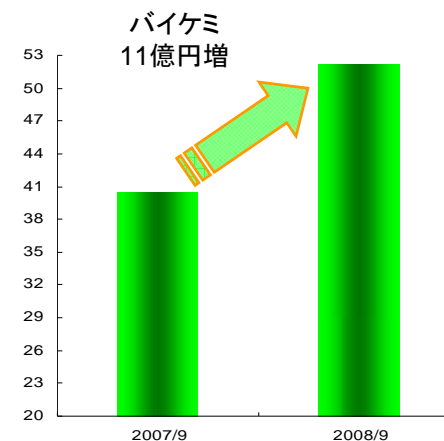
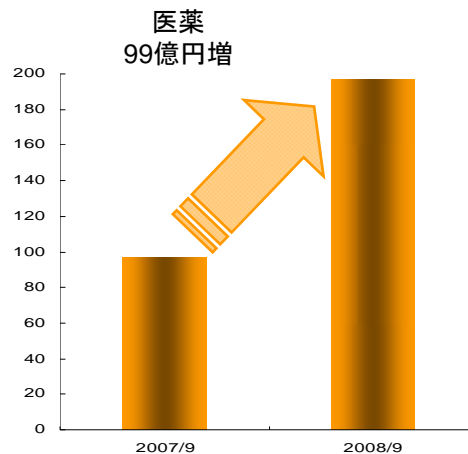
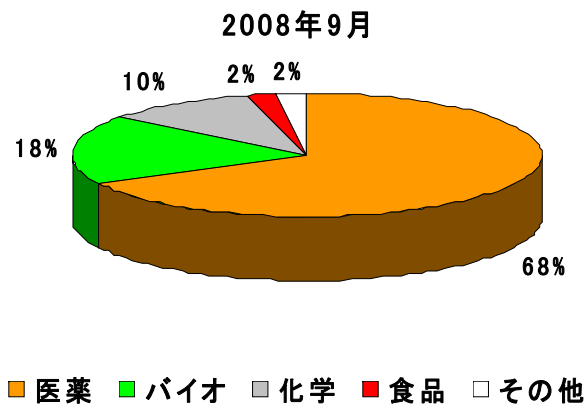
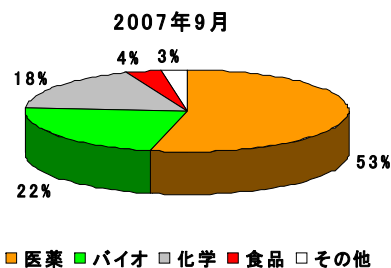


- 医薬は、キリンファーマ社との統合、Amgen社からの契約一時金収入に加え、コバシルの新発売、パタノールの伸長等により増収
- バイオケミカルは、輸液用や医薬原料用のアミノ酸が堅調だが為替影響あり。ヘルスケア製品は伸長
- 化学品は、原料指標価格であるナフサが前年上期¥58,750/klに対し、今期約¥78,000/klで推移したため3月価格改定を実施

# ● 連結営業利益 第2四半期累計増減内訳

KYOWA KIRIN

## ◆ 営業利益構成比



### 【医薬、バイオケミカルで増益を達成】

- 化学品は、原燃料価格高騰を背景に価格改定を実施したが、設備投資に伴う減価償却費の増加等により減益

## ● 医薬事業(前年両社単純合算との比較)

**KYOWA KIRIN**

億円	両社単純合算 2007年4-9月	2008年9月	前年同期比
売上高	1,035	1,087	+51
営業利益	161	240	+79
研究開発費	248	230	▲18

※2008年9月の営業利益は統合に関するのれん償却前

### 【増収増益を達成】

- 売上高、営業利益プラス要因は、KW-0761\*のAmgen社への導出に伴う契約一時金収入、コバシル(本年4月)・レグパラ(本年1月)の発売、パタノールの伸長など
- 売上高、営業利益マイナス要因は、薬価改定、デュロテップの終売など
- ネस्प／エスポーは前年比でシェアアップを果たすが、薬価改定の影響で減収
- 研究開発費は前年両社単純合算比で減少

\* KW-0761は当社が開発した強活性抗体作製技術(POTELLIGENT<sup>®</sup>)を適用した抗体医薬開発品です

## ● 主力医薬品の売り上げ

**KYOWA KIRIN**

(億円)	2007/9	2008/9	参考: 通期予想 (7/31時点)	参考: 通期予想 (今回)
ネスプ/エスポー	225	213	468	430
コニール	132	116	228	229
アレロック	95	96	233	231
パタノール	8	14	50	49
グラン/ノイアップ(*)	95	91	182	183
デパケン	52	53	103	107
ナベルビン	16	15	33	31
デュロテップ	71	—	—	—
コバシル	—	26	43	50
レグパラ	—	19	69	42
輸出・技術収入(*)	116	228	295	297

(\*)2007/9のグラン/ノイアップ、輸出・技術収入は両社単純合算値

億円	2006年9月	2007年9月	2008年9月	前年同期比
売上高	333	438	457	+19
営業利益	15	40	52	+11

**【医薬・工業用アミノ酸、ヘルスケア製品の伸長などにより増収増益】**

- 医薬・工業用原料は、海外の需要増を背景に輸液用アミノ酸等が堅調
- ヘルスケア製品は、国内通販や米国市場における健康食品素材の好調もあり増収
- 第一ファインケミカル(株)のビタミン類は、競争激化により減収



## ● 2008年度通期予想（連結）

**KYOWA KIRIN**

億円	売上高	営業利益	経常利益	純利益
2009年3月 (対公表値)	4,900 (－)	500 (▲12.3%)	500 (▲10.7%)	170 (▲39.3%)
2009年3月 (4/28公表)	4,900	570	560	280
2008年3月	3,921	393	379	234

### 【腎領域製品の計画見直し、積極的導入による経費増などにより減益(対公表値)を見込む】

- 抗体医薬の共同研究開発権、RNAi医薬開発品を導入(期初計画外)
- 久光製薬(株)からHFT-290(がん疼痛治療剤)の共同販売権を獲得(期初計画外)
- ネスプノエスポー、レグパラは、会社計画を下方修正
- バイオケミカルは医薬・工業用原料アミノ酸等は好調を維持すると見込むが、ビタミン類の価格競争激化などを織り込み計画比で微増益
- 化学品は原料価格動向を今後も注視(下期計画のナフサは¥70,000/kl)
- 特別損益は、食品事業統合に係る売却益などを見込むが、統合関連費用などが増加

---

医薬事業 TOPICS

---

# ● 新薬開発状況一覧 (2008.10月現在)

## 協和発酵キリン

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん・血液	KRN321 ネスブ	PhⅢ		☆ がん化学療法に伴う貧血治療剤	注射	Kirin-Amgen	☆ 持続型赤血球造血刺激因子製剤。日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として2007年7月より発売中。
	AMG531	PhⅢ		血小板減少症治療剤 (特発性血小板減少性紫斑病)	注射	Kirin-Amgen	血小板増殖刺激因子製剤 (契約に基づき、開発はアムジェン・テベロップメント㈱が実施)
	KW-2246	PhⅢ		がん疼痛治療剤	舌下錠	Orexo	
	KRN125	PhⅡ		白血球減少症治療剤	注射	Kirin-Amgen	持続型G-CSF製剤
	AGS-003		米国・カナダ PhⅡ	免疫賦活性がん治療細胞医薬品 (腎細胞がん)	注射	Argos	
	AGS-004		カナダ PhⅡ	免疫賦活性HIV治療細胞医薬品	注射	Argos	
	KRN654	PhⅠ/Ⅱ		血小板増多症治療剤	経口	Shire	
	KW-0761	PhⅠ		抗悪性腫瘍剤 (血液がん)	注射	自社	ヒト化抗体 (がん領域以外および日本・中国・韓国・台湾以外の開発/販売権を 米国Amgen社へ2008年3月に専出)
	KW-2449		米国 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	経口	自社	
	KW-2478		欧州 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	
	ARQ 197	PhⅠ		抗悪性腫瘍剤	経口	ArQule	
	KRN330		米国 PhⅠ	抗悪性腫瘍剤	注射	自社	完全ヒト抗体



2008年4月28日より進捗した開発品目 (地域・ステージ・申請・承認・発売等)  
 ☆ 適応拡大

(注)

なお、本表内には記載しておりませんが、ベトナムにおいてペグフィルグラスチム(持続型G-CSF製剤)、フィリピンにおいてフィルグラスチム(G-CSF製剤)の承認申請を行っております。

# ● 新薬開発状況一覧 (2008.10月現在)

## 協和発酵キリン

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
腎臓	PB94 フォスブロック/レナジエル		中国 申請中 2008.6	高リン血症治療剤	経口	中外製薬	本邦：発売中
	KRN321 ネスブ	PhIII	中国 Ph II	☆ 腎性貧血治療剤	注射	Kirin-Amgen	☆ 持続型赤血球造血刺激因子製剤。日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として2007年7月より発売中。
免疫・アレルギー	KW-4679 アレロック		中国 申請中 2008.7	抗アレルギー剤	経口	自社	本邦：発売中
	Z-206 アサコール	PhIII		炎症性腸疾患治療剤 (クローン病)	経口腸溶製剤	ゼリア新薬	ゼリア新薬と共同開発。
	NU206		豪州 Ph I	炎症性腸疾患治療剤	注射	Nuvelo	
中枢神経系	KW-6002	PhIIb	米国 申請中 2007.4	抗パーキンソン剤	経口	自社	☆ 単剤投与 (Mono-Therapy) での臨床試験はPhIIa(日本)。
	KW-6500	PhII		抗パーキンソン剤	注射	Britannia Pharma.	
循環器	KW-3049 コニール		中国 承認 2008.9	☆ 狭心症治療剤	経口	自社	☆ 中国で高血圧症治療剤として2004年12月より発売中。 (本邦：発売中)
その他	KW-3357	PhI		血液凝固阻止剤 (汎発性血管内凝固症候群)	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンピン製剤
	KW-7158	PhIIa		腸疾患治療剤 (過敏性腸症候群)	経口	自社	過活動膀胱/尿失禁での開発は2006年9月に中止。



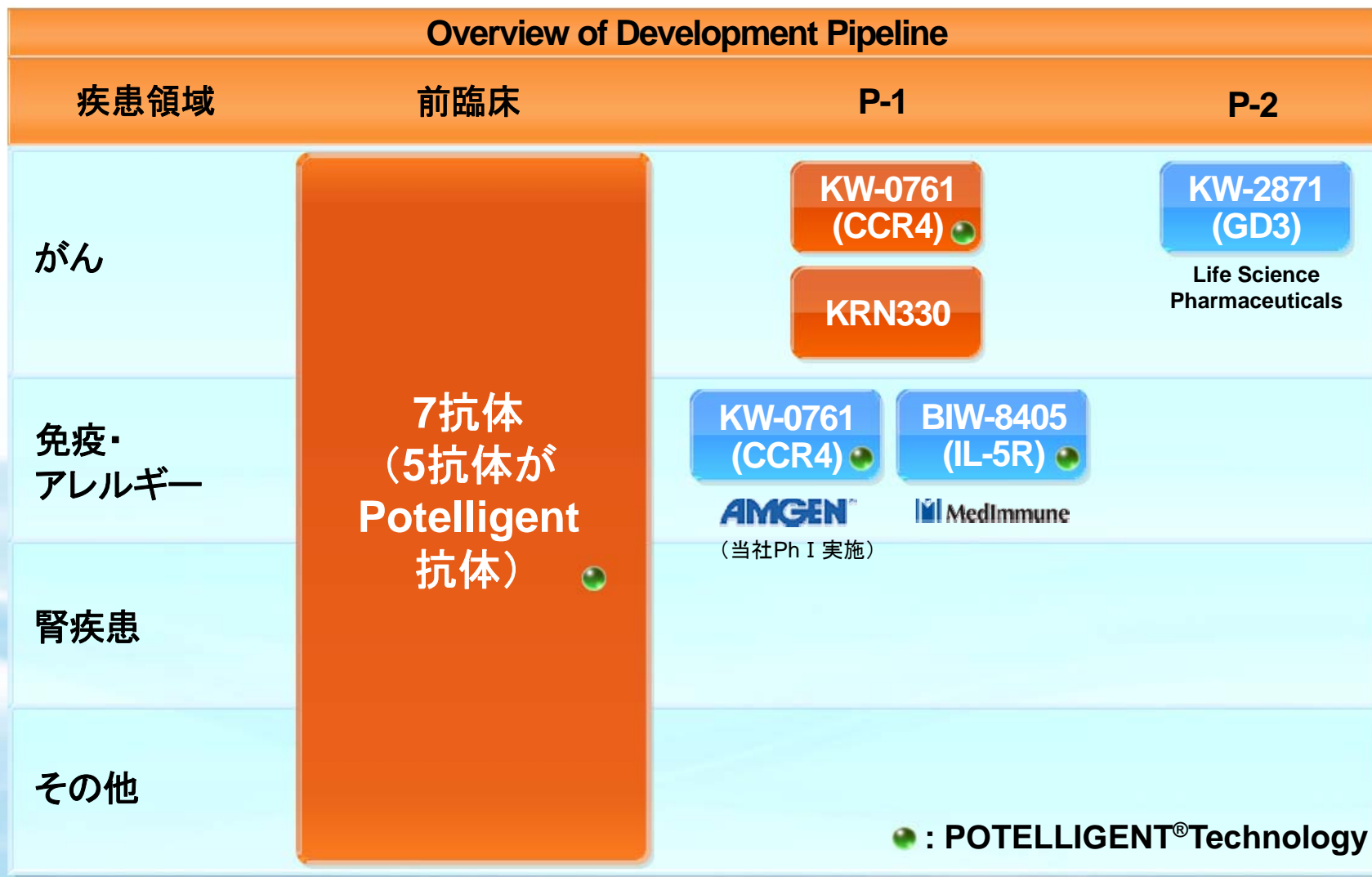
2008年4月28日より進捗した開発品目 (地域・ステージ・申請・承認・発売 等)



適応拡大

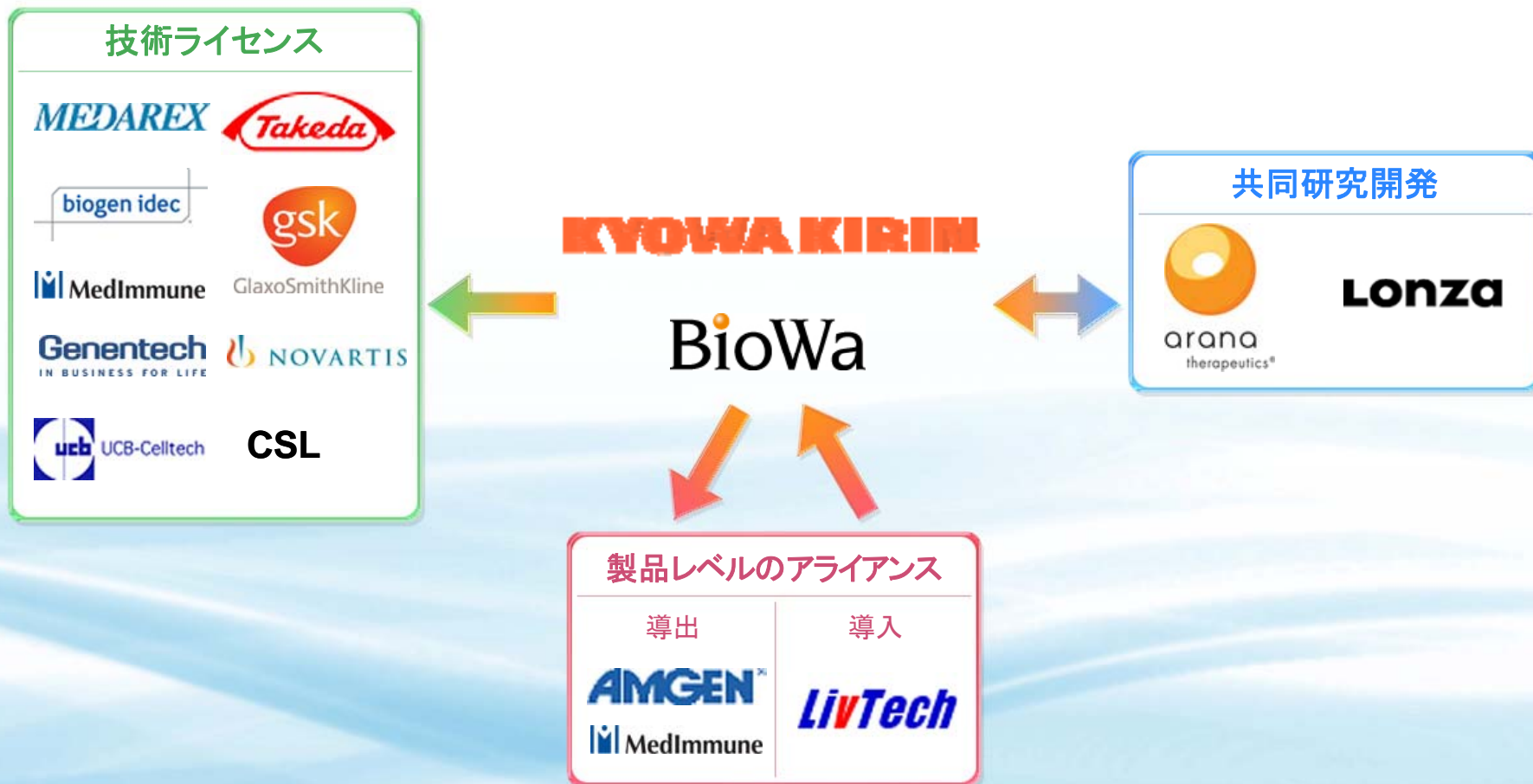
(注)

なお、本表内には記載していませんが、ベトナムにおいてペグフィルグラスチム(持続型G-CSF製剤)、フィリピンにおいてフィルグラスチム(G-CSF製剤)の承認申請を行っております。



● POTELLIGENT技術関連ライセンス  
(2008.10月現在)

KYOWA KIRIN



● 導出入化合物の進捗 (2008.10月現在)

		相手先	前臨床	Phase			備考
				I	II	III	
導出	CEP-701	Cephalon	→				抗悪性腫瘍剤 (急性骨髄性白血病)
	KW-3902 (MK-7418)	Merck (NovaCardia)	→				心不全/腎不全
	LY2523355 (Eg5阻害剤)	Eli Lilly	→				M期キネシンEg5阻害剤
	KW-2871 (低フコース抗体)	Life Science*	→				抗悪性腫瘍剤 (悪性黒色腫)
	KW-0761 (POTELLIGENT抗体)	Amgen	→				抗CCR4抗体 (当社Ph I 実施)
	BIW-8405 (POTELLIGENT抗体)	AstraZeneca (MedImmune)	→				IL-5R抗体
	KRN951 (AV-951)	AVEO	→				VEGF受容体阻害剤
	Debio0719	Debio	→				LPA受容体阻害剤 (がん骨転移抑制)
	KRN7000	レグイミュン	→				免疫抑制剤

\* Life Science Pharmaceuticals

● 導出入化合物の進捗 (2008.10月現在)

		相手先	前臨床	Phase			備考
				I	II	III	
導入	KW-6500	Britannia*	→				抗パーキンソン剤 (注射)
	アサコール	ゼリア新薬工業 (株)	→				炎症性腸疾患治療剤 (クローン病) 潰瘍性大腸炎は申請中
	ARQ197	ArQule	→				抗悪性腫瘍剤
	ALN-RSV01	Alnylam	→				RSV感染症治療剤 (RNAi医薬品)
	ART104	arana	→				抗悪性腫瘍剤 (大腸がん)
	HFT-290	久光製薬(株)	申請中				経皮吸収型持続性 がん疼痛治療剤
	KRN654	Shire	→				血小板増多症治療剤
	NU206	Nuvelo	→				炎症性腸疾患治療剤
	AGS-003	Argos	→				免疫賦活性がん治療 細胞医薬品 (腎細胞がん)
	AGS-004	Argos	→				免疫賦活性HIV治療 細胞医薬品

\* Britannia Pharmaceuticals



□ Amgen社へ導出

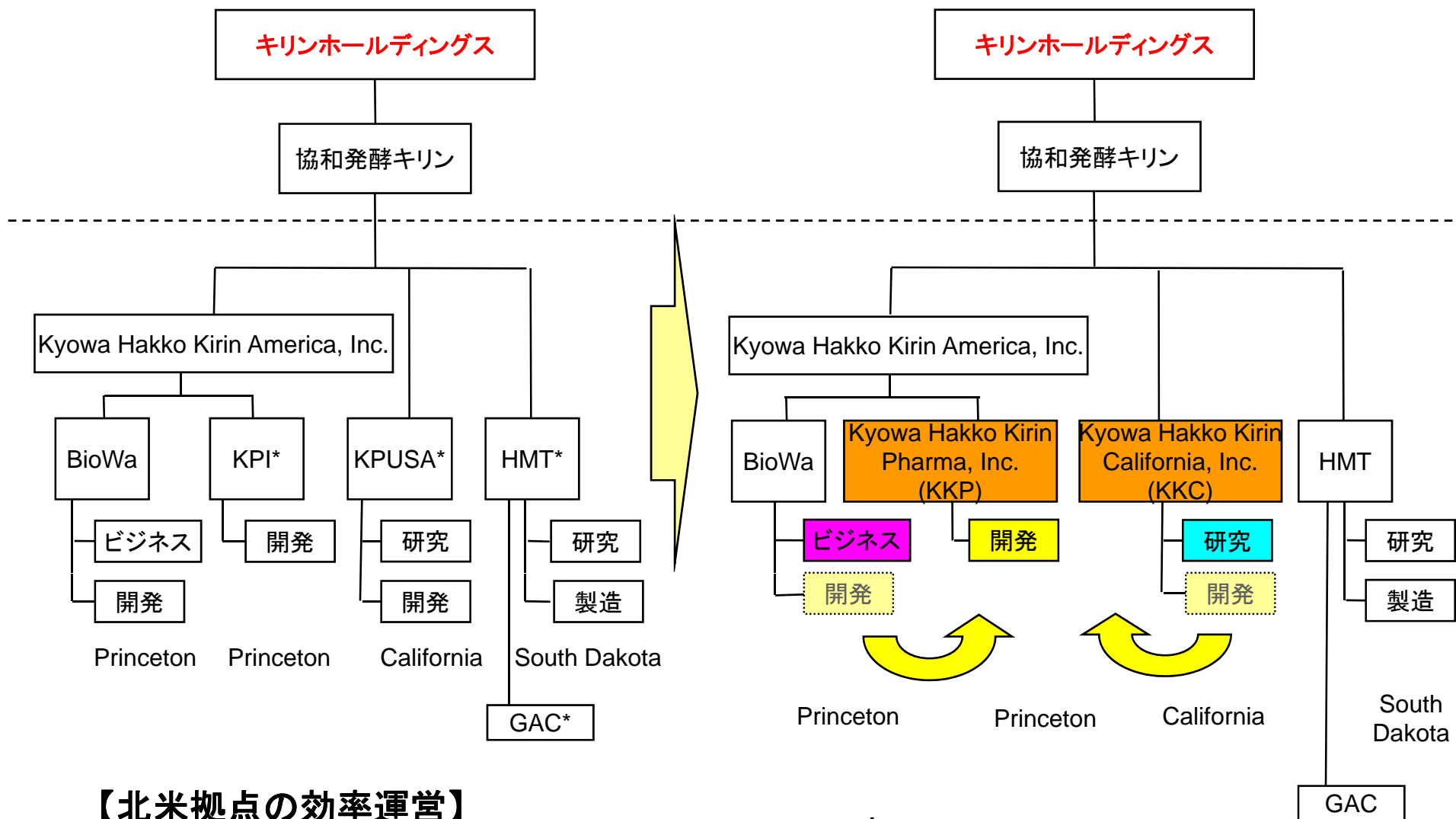
□ 導出条件

- 日本、中国、韓国、台湾を除いた全世界における独占的開発・販売権の許諾
- がん領域以外のすべての疾患についての権利を付与
- がん領域の権利については、当社が実施予定の米国臨床試験の薬効確認時点で、Amgen社が権利許諾を受けるオプション権をもつ

□ 経済条件

- 契約発効時一時金 100百万米ドル
- マイルストーン 420百万米ドル(開発・販売マイルストーン)
- ロイヤルティー 販売金額に応じて(二桁%)

● 米国子会社再編スキーム(2009年1月1日予定)



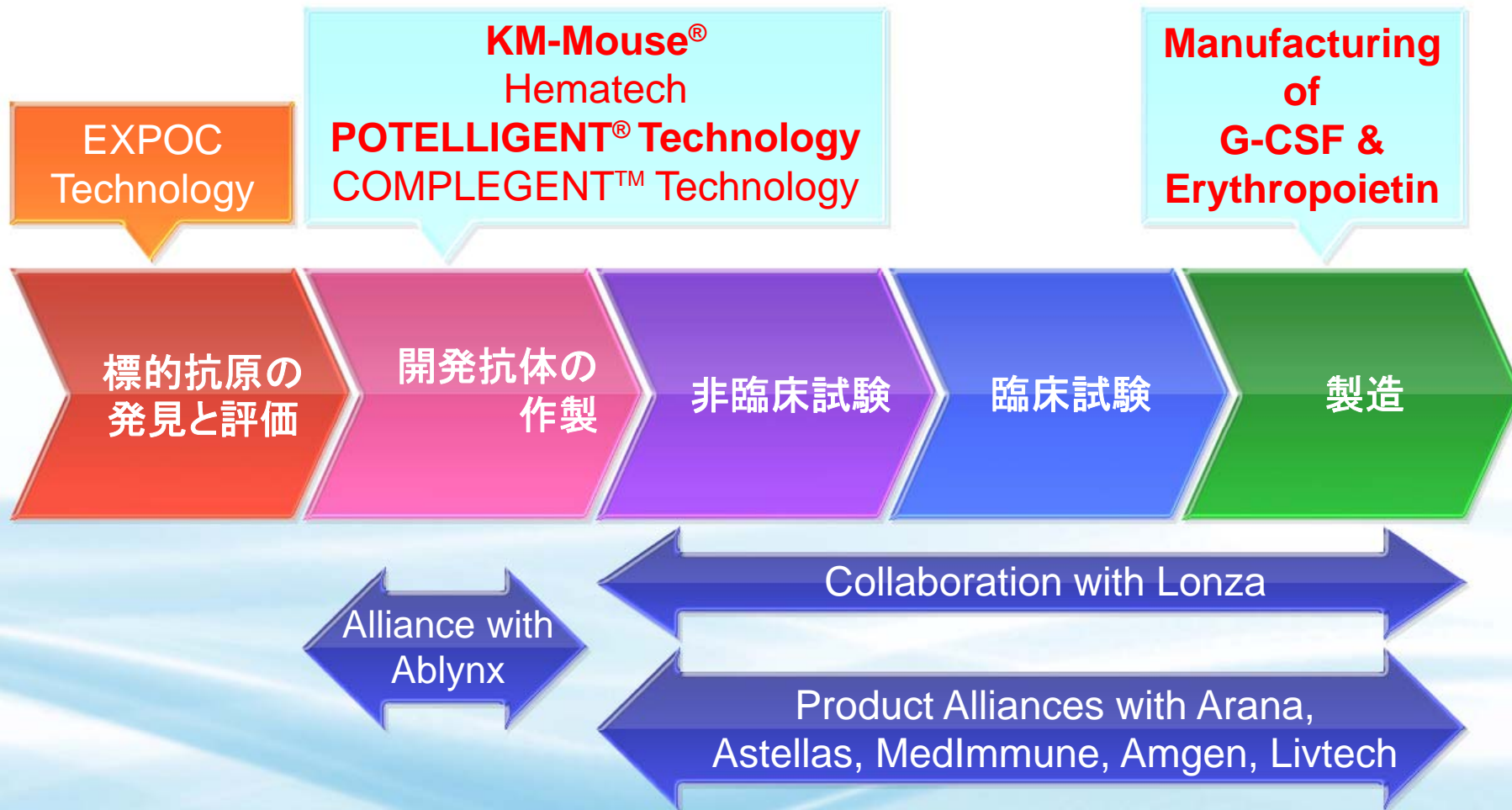
【北米拠点の効率運営】

- KKPへ開発機能を集約(Princeton)
- KKCは研究機能に特化(California)
- BioWaはライセンスビジネスに特化(Princeton)

\*  
 KPI: Kyowa Pharmaceutical, Inc.  
 KPUSA: Kirin Pharma USA, Inc.  
 HMT: Hematech, Inc.  
 GAC: Hematech-GAC Venture, LLC

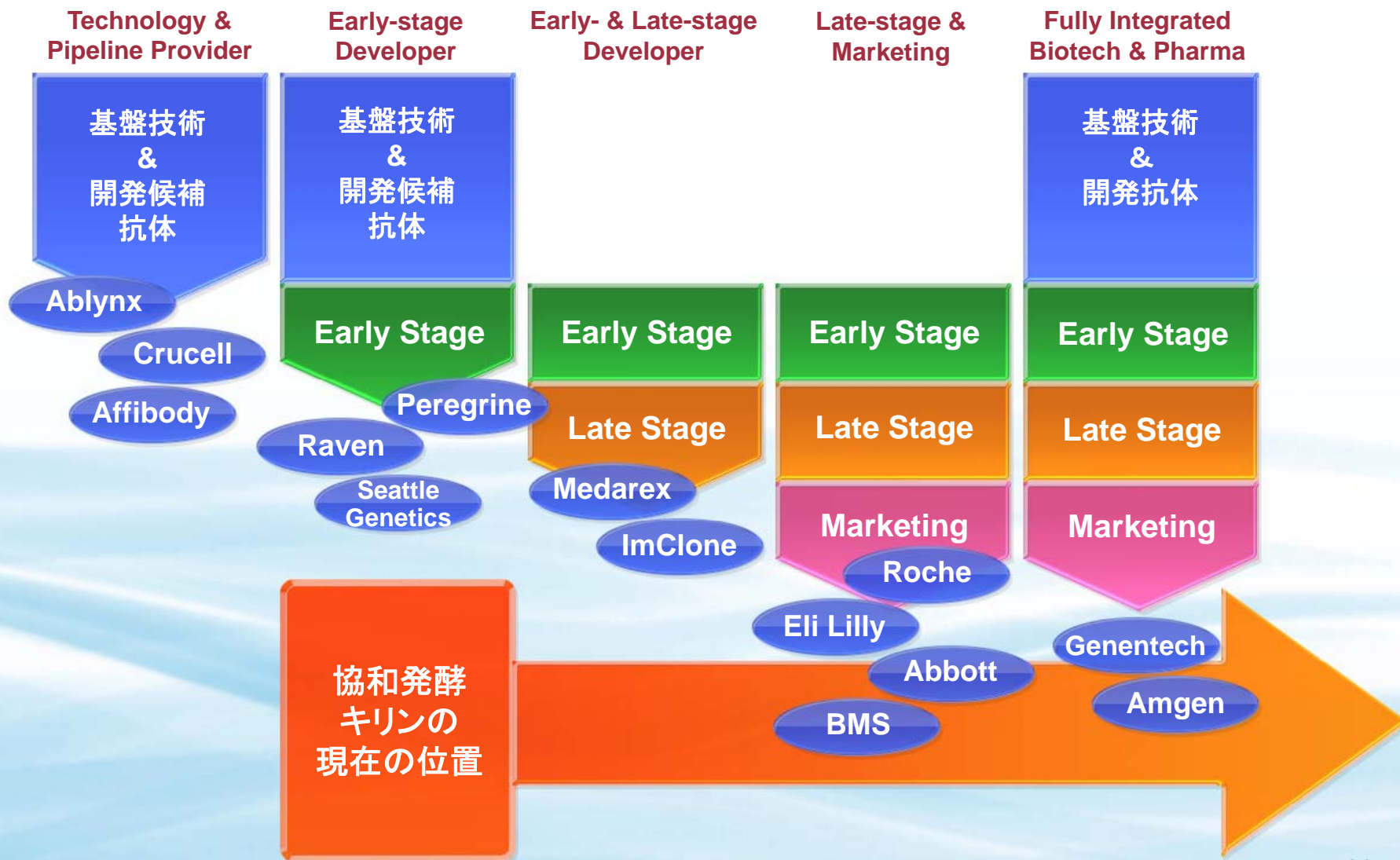
● 協和発酵キリンの抗体事業戦略

KYOWA KIRIN



卓越した抗体基盤技術と戦略的提携を通じた  
パイプラインの充実

● 抗体事業を手がける企業の発展段階による分類



---

# 食品事業統合

---

## ● 食品事業統合について

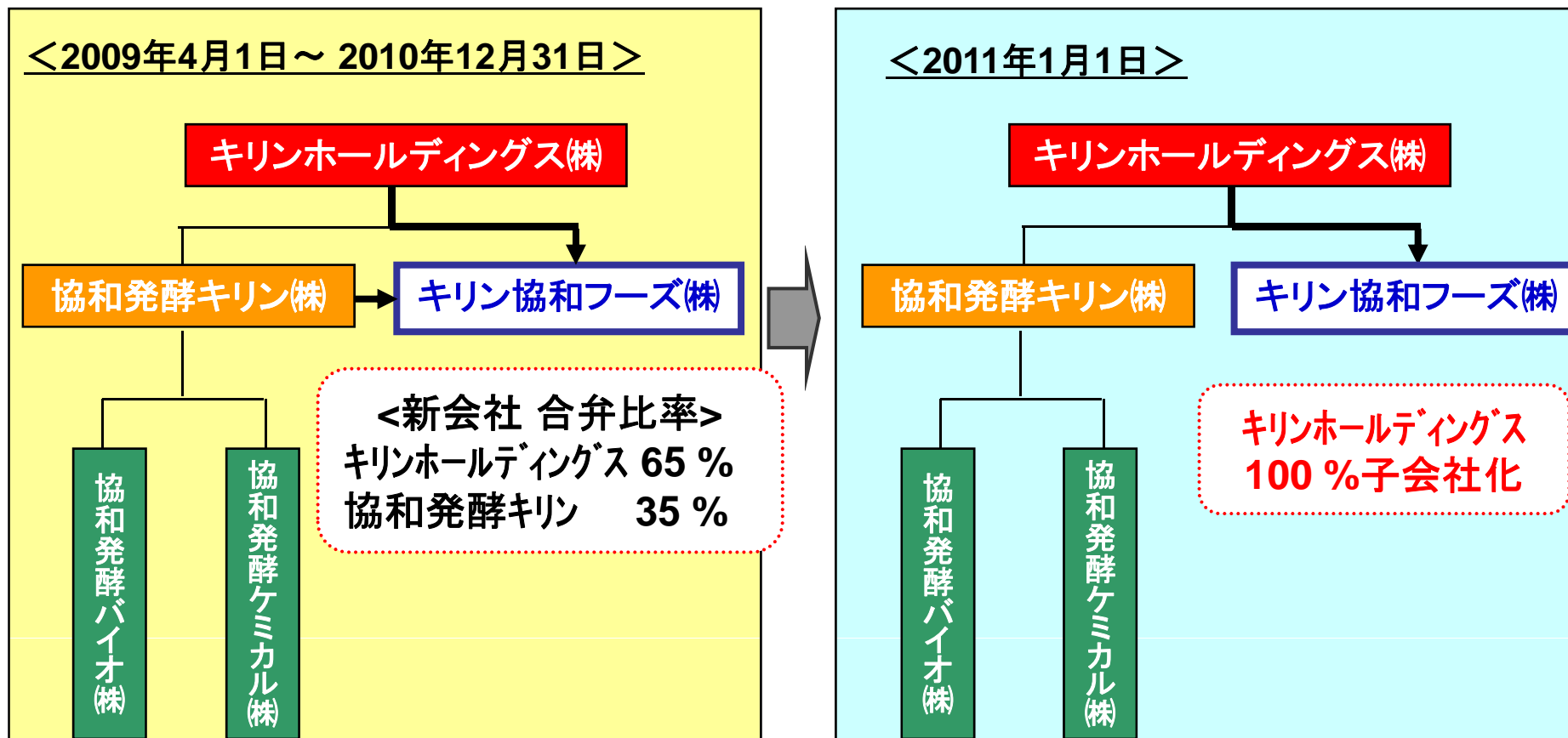
**KYOWA KIRIN**

	協 和 発 酵 フ ー ズ (株)	キ リ ン フ ー ド テ ッ ク (株)
売 上 高	433億円	272億円
資 本 金	30億円	50億円
従 業 員	586人	261人
事業内容	調味料、製菓・製パン資材等の製造・販売	加工用、業務用、家庭用調味料、その他食品添加物の製造・販売
主要製品	エキス系天然調味料、アミノ酸系天然調味料、醸造調味料、うま味調味料、中華ソース、ダイヤイースト、ゴールドエンロー、たまごスープ	リボタイド、ビール酵母エキス酵母、カードラン、いの一番、サネット

\* 協和発酵フーズ(株)の数値は2008年3月31日現在連結、キリンフードテック(株)の数値は2007年12月31日現在

- 両社が培ってきた発酵関連技術を基盤として、業務用食品素材分野でのプレゼンス向上を目指す
- アジア・オセアニア地域での事業価値最大化
- キリングループ長期経営構想「キリン・グループビジョン2015」で掲げる「食と健康」領域での飛躍的成長を目指す

# ● 食品事業統合について 統合ストラクチャー



**(ステップ1) 2009年4月1日**

協和発酵フーズ(株)とキリンフードテック(株)を合併しキリン協和フーズ(株)を設立。持分はキリンホールディングス(株)65%、協和発酵キリン(株)35%。キリン協和フーズ(株)は協和発酵キリン(株)の持分法適用関連会社に

**(ステップ2) 2011年1月1日**

キリンホールディングス(株)が協和発酵キリン(株)の持分(35%)を全て買い取り、キリン協和フーズ(株)はキリンホールディングス(株)の100%子会社に

---

**APPENDIX**

---



## ● 医薬事業 増減差異分析

**KYOWA KIRIN**

注記のない場合は単体ベースの影響

2007年9月	売上高	2008年9月
<b>689億円</b>	<b>+398億円</b>	<b>1,087億円</b>
増収要因	キリンファーマ社新規連結 Amgen社からの契約一時金 コバシル新発売、パタノール等伸長	
減収要因	薬価改定影響 デュロテップ終売	
	<b>営業利益</b>	
<b>97億円</b>	<b>+99億円</b>	<b>196億円</b>
増益要因	キリンファーマ社新規連結 Amgen社からの契約一時金 コバシル新発売、パタノール等伸長	(統合に関するのれん:43億円)
減益要因	薬価改定影響	

● バイオケミカル事業 増減差異分析

KYOWA KIRIN

注記のない場合は単体ベースの影響

2007年9月	売上高	2008年9月
438億円	+19億円	457億円
増収要因	医薬・工業用原料バルク数量増 リメイクシリーズ通販拡大	
減収要因	為替影響	
	営業利益	
40億円	+11億円	52億円
増益要因	医薬・工業用原料バルク数量増 リメイクシリーズ通販拡大	(統合に関するのれん:3億円)
減益要因	為替影響	

億円	2006年9月	2007年9月	2008年9月	前年同期比
売上高	458	510	572	+61
営業利益	16	32	29	▲3

【原燃料価格高騰を背景に価格改定を実施】

- 国内 販売数量は前期比減となるも、製品価格改定を実施し増収
- 輸出 主力製品の海外市況が高値で推移し販売数量増もあり増収
- 機能性製品 冷凍機向け潤滑油原料が伸長
- 減価償却費 生産及び研究設備への投資に伴い減価償却費が増加

ナフサ価格動向(/KL)

2007/9実績	2008/9見込み
¥58,750	¥78,000

## ● 化学品事業 増減差異分析

**KYOWA KIRIN**

注記のない場合は単体ベースの影響

2007年9月	売上高	2008年9月
<b>510億円</b>	<b>+61億円</b>	<b>572億円</b>
増収要因	(国内)基礎化学品価格改定 (輸出)市況堅調、機能性製品の伸長	
減収要因	一部製品の撤退(アセトン大口向け)	
	<b>営業利益</b>	
<b>32億円</b>	<b>▲3億円</b>	<b>29億円</b>
増益要因	(国内)基礎化学品価格改定 (輸出)市況堅調、機能性製品の伸長	(統合に関するのれん:0.2億円)
減益要因	減価償却費増加	

億円	2006年9月	2007年9月	2008年9月	前年同期比
売上高	209	209	208	▲1
営業利益	8	6	5	▲1

**【原燃料価格高騰の環境下前期並みの業績達成】**

- 天然調味料 原材料価格高騰の影響を受けながらも醸造調味料は伸長
- うま味調味料 数量増加、原材料価格高騰の影響により価格改定を実施し増収
- 製菓・製パン資材 風味料は好調も、原材料価格高騰の影響を受け一部製品の販売を中止したことなどにより減収

## ● 食品事業 増減差異分析

**KYOWA KIRIN**

注記のない場合は単体ベースの影響

2007年9月	売上高	2008年9月
209億円	▲1億円	208億円
増収要因	醸造調味料、うま味調味料数量増	
減収要因	製菓・製パン資材数量減	
	営業利益	
6億円	▲1億円	5億円
増益要因	うま味調味料の価格改定 製菓・製パン資材の販売製品見直し	(統合に関するのれん:1億円)
減益要因	原価アップ	

# **KYOWA KIRIN**